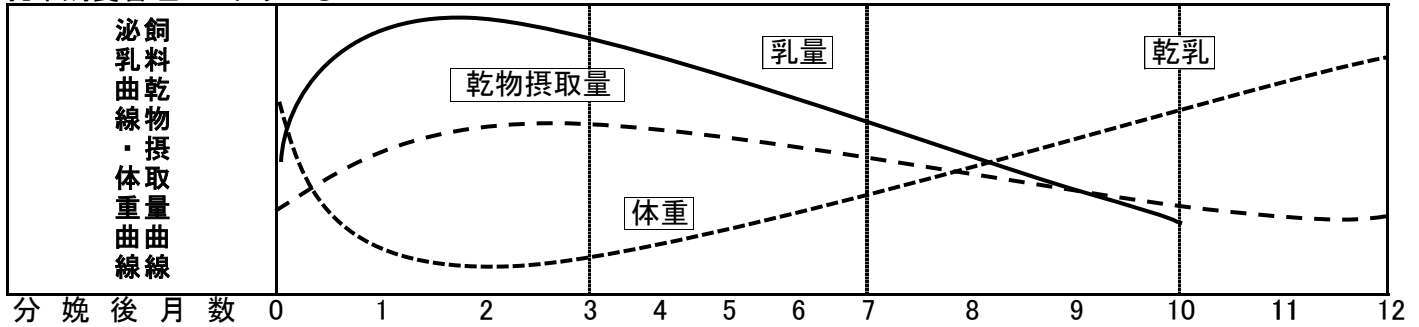


● 生乳

アッププラン

- 乳牛を健康に飼う
- 乳用後継牛を確実に確保する
- ET和牛やF1子牛をうまく活用する

○乳牛飼養管理プログラム○



泌乳ステージ		泌乳前期	泌乳中期	泌乳後期	乾乳期	
泌乳量 (kg/日)		50 ~ 35	35 ~ 20	20 ~ 10	前期	後期
飼料給与基準	DM体重比%	3.5 ~ 4.0	2.5 ~ 3.5	2.0 ~ 2.5	1.8~2.2	1.6~1.8
	CP (%/DM)	16 ~ 18	14 ~ 16	13 ~ 14	12~13	13~15
	バイパス率	35 ~ 40	35 ~ 40	30以上	30~35	35~40
	TDN (%/DM)	73 ~ 75	68 ~ 72	63 ~ 67	55~60	60~65
	NFC (%/DM)	32 ~ 35	30 ~ 35	35以下	30	32
	FAT (%/DM)	6 ~ 8	4 ~ 6	3 ~ 4	2~3	2~3
	ADF (%/DM)	21前後	21以上	21以上	35~40	30~35
	NDF (%/DM)	35 ~ 38	35 ~ 40	35以上	50~65	40~50
	Ca (%/DM)	0.8 ~ 1.0	0.6 ~ 0.8	0.5 ~ 0.6	0.6	0.7
P (%/DM)	0.5	0.4	0.3	0.26	0.3	
ボディコンディション	2.5 ~ 3.0	3.0	3.0 ~ 3.5	4.0未満		
飼養管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩後3日間は濃厚飼料は増給せず、この間の食欲が正常なことを確認したのち、徐々に濃厚飼料を増やしていき、分娩後半月以降は乳量に合わせた給与量にもっていく。 ・飼料摂取のピークに達するまでは高泌乳牛ほど栄養不足になりやすいので、粗飼料は品質の良いものを与え、サプリメント等も活用する。 ・濃厚飼料の給与量は4kg以下/回とし、1日の給与回数を3回以上とする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・乾物摂取量がピークに達した後の栄養的バランスのとれた安定期であり、体重は回復に向かう。 ・この期間中に受胎が確認できるようにしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・乳量よりも乾物摂取量の減少が少ないため肥り易い時期で、栄養過剰にならないようボディコンディションに注意し、ベストの状態に導く。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖管理のポイント ・個体ごとの繁殖記録(台帳)を整備する。 ・分娩後1ヵ月以上経過したら、次回妊娠のための子宮・卵巣の状態を確認する。(獣医師による検診などを受診。) ・分娩後の初回発情を確実にチェックし、以後周期的(約21日間隔)に発情が来れば適期に授精する。 ・授精後60日以上経過した牛は必ず妊娠鑑定を受ける。 ・乾乳期~泌乳前期の期間は、ビタミンADE剤を充分補給する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一発乾乳が良い。 ・乾乳期間は60日前後とる(多くても少なくとも良くない)。 ・盗食の防止策を講じる。 ・乾乳期の栄養は胎児の成長に合わせ、良質粗飼料と適量の濃厚飼料を組み合わせる。 ・クローズアップ期はイオンバランスにも注意を。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・長モノの粗飼料を飽食状態(飼槽にいつもある状態)にしてルーメン運動を正常に保つ。 						

○子牛育成ポイント○

- ・子牛の哺育育成の目的は、乳生産性や長命連産性などの優秀な遺伝能力を持った後継牛を確保することです。
- ➡ 牛群内での高能力牛へは性判別精液や乳牛精液を活用し、後継牛を確実に確保しましょう！ ET和牛やF1子牛も大切な収入源の1つです。上手に活用しましょう！
- ・哺育育成管理の基本は『衛生面』で、清潔で乾燥していることです。
- ➡ 分娩直後の子牛の臍帯をヨーチン等で消毒し、細菌感染を未然に防止しましょう！ 哺乳期間はカーフハッチや独房などで、1頭飼いできるスペースを確保しましょう！
- ・育成牛にとって大切なことは、丸々と肉付きが良くなることではなく、ミルクに頼っている第4胃中心の単胃動物的消化機能を早く卒業(離乳)して、固形飼料(粗飼料・濃厚飼料)を沢山摂取し一人前の反芻胃の機能を早く獲得し、発達させることです。
- ➡ 人工乳(モーレット)や濃厚飼料を日齢や発育に応じて、給与しましょう！ 水と乾草は常に口にできるような状態にしましょう！

日常の観察と記録が大切です。 -記憶は薄れますが記録は残ります!!-